

第1回 川辺川の流水型ダムに係る環境保全対策 アドバイザー会議

説明資料 【川辺川における河川整備について】

令和7年6月13日



熊本県 河川課



川辺川における河川整備計画について

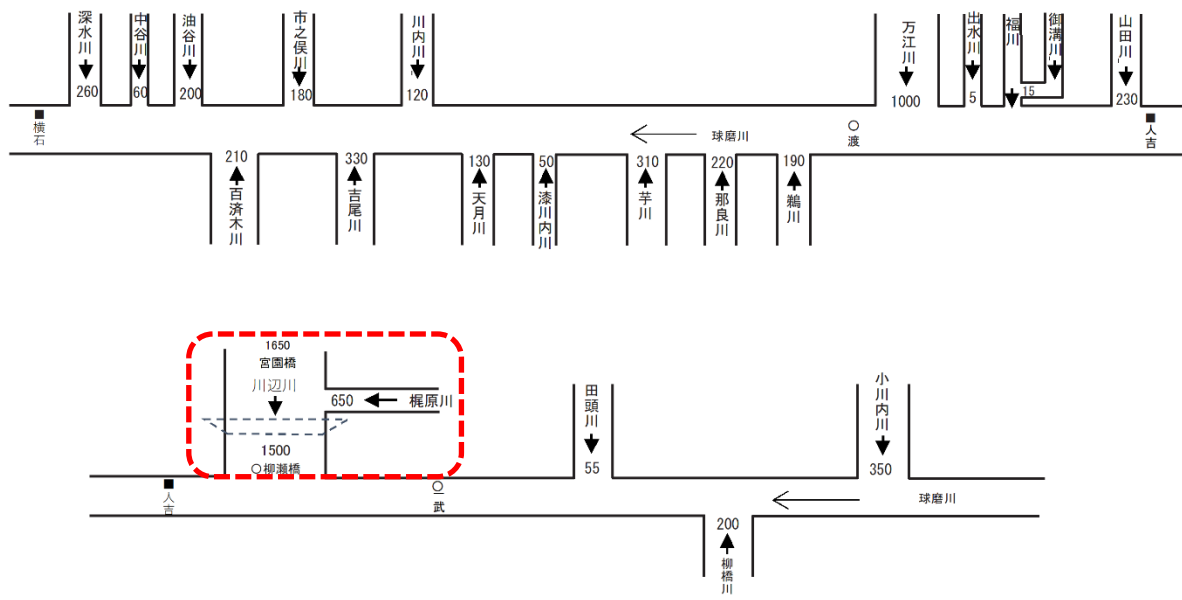
治水対策の目標

○ 過去の水害の発生状況、気候変動の影響による降水量の増大、流域の重要度、河川整備の状況等を総合的に勘案し、球磨川水系河川整備基本方針に定められた整備目標に向けて、上下流及び本支川の治水安全度のバランスを確保しつつ段階的かつ着実な河川整備による球磨川流域の強靱化を推進し、洪水氾濫等による災害の防止又は軽減を図ることを目標とする。

○ 本計画は、気候変動による降雨量の増加を考慮（1.1倍）して算出した年超過確率が概ね1/30規模の目標流量を安全に流下させることとする。

整備計画完了により期待できる効果

この計画を完了することにより、気候変動を考慮した戦後最大の洪水（令和2年7月豪雨を含む）と同規模の洪水に対して、家屋の浸水防止など、流域における浸水被害を軽減できる。



河道整備の
目標流量配分図

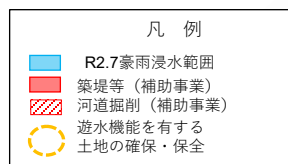
※球磨川水系河川整備計画
[県管理区間]より抜粋

川辺川における河川整備について(流水型ダムより下流)

- 川辺川においては、令和2年7月豪雨により、相良村内で床上184戸の甚大な家屋浸水被害が発生。
 - 河道掘削や築堤等の河川整備及び遊水機能を有する土地の確保・保全等により、浸水被害を解消し再度災害を防止。
 - 河川整備については、河畔林の保護、生物の生息環境や景観に配慮した計画とし、平川地区で護岸工事を実施中。
- 永江地区や前田・境田地区では河道掘削、用地測量に着手。

■河道掘削や築堤等の河川整備（永江地区、前田・境田地区）

・令和7年3月 河川整備等に関する説明会



1現地調査 2設計 3用地 4工事 完成

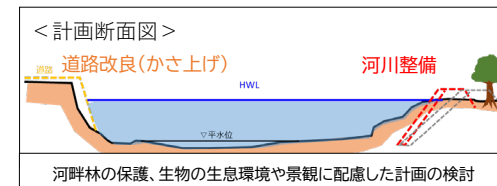
（平川地区）

・整備内容を検討する際、河畔林の保護や生物の生息環境、景観等に配慮。

・令和6年7月 河川整備(平川地区)に関する説明会



<事業平面図>



1現地調査 2設計 3用地 4工事 完成

○遊水機能を有する土地の確保・保全については、黒石地区、下鶴地区で周囲堤工事を実施中。相良村が検討中の案を基に、村や学識者と共に利活用方針を引き続き検討。

○そのほか廻地区では、相良村が進める川辺川魅力創造事業による交流拠点施設の整備と連携し、川辺川本川右岸や分流する小河川において親水護岸等の河川整備を実施。

■遊水機能を有する土地の確保・保全 (黒石地区、下鶴地区)

【遊水機能を有する土地について】

・洪水の一部をとどめておくことができる河川沿いの遊水機能を有する土地を確保・保全し、洪水を一時的に貯留するグリーンインフラとして活用することで、洪水をゆっくり流して沿川の浸水被害低減を図る。

(黒石地区)



・令和7年5月 周囲堤工事に着手

(下鶴地区)



・令和7年1月 周囲堤工事に着手



牛の放牧や探草牧草地としての利活用を検討中



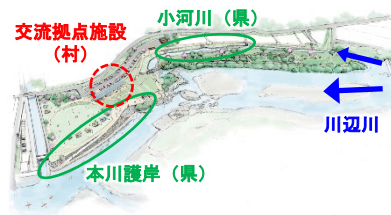
湧水を活かした一部エリアを親水公園として整備することを検討中
(その他のエリアは探草牧草地を検討中)

1 現地調査 2 設計 3 用地 4 工事 完成

■川辺川魅力創造事業と連携した河川整備 (廻地区)

・相良村が進める、村の魅力を村内外に発信できる交流拠点施設
(駄やな場、キャンプ場、川遊び場、カフェ等)の整備と連携し、川辺川本川右岸や分流する小河川において親水護岸等の河川整備を実施。

R6.6 基本計画公表時のイメージ



R6.9 プロポーザル提案時のイメージ



本川護岸の現況



本川護岸の整備イメージ



小河川の現況



小河川の整備イメージ

1 現地調査 2 設計 3 用地 4 工事 完成

※レッドデータブックくまもと2024より 熊本県カテゴリーによる分類

○整備にあたっては、周辺に生息するカジカガエル(準絶滅危惧(NT)※)が、水辺と陸域を行き来しやすいよう、緩勾配の護岸を一部計画
○また、R6.6の村民説明会時に「河川環境や景観のため、原風景として残すよう考えてほしい。」との意見があったことを踏まえ、可能な限り
川辺川の象徴的な景観である河畔林を保全できるよう、護岸の位置を当初計画から変更するとともに、景観等に配慮した護岸に変更

7月4日午前の様子

写真①

写真②

平面图

河川整備（右岸） L=約760m
（築堤・河道拡幅・護岸）

写真①

国道445号

道路事

A-A'断面イメージ

A'

■現況
■計画

河畔林の保護のため管理用道路は

既存の宸廔を活用

可能な限り

左岸側

瀬・淵の保全

現場発生土砂による覆土や寄せ石等の検討

配慮事項③

景観等に配慮した石系の護岸に変更

現在の工事状況 (R7.4.30)

カジカガエル等の生物移動のため、
一部緩勾配の護岸を計画

計画平面図

カジカガエル
(準絶滅危惧(NT))

出典：環境工学(株) ストーンネット工法 カタログ

護岸の位置・勾配の変更により、可能な限り河畔林を保全

凡例  : 保全できない範囲
 : 保全できる範囲(当初計画)
 : 追加保全できる範囲(変更計画)



河畔林の保全面積

横断図

変更計画

安全できる範囲が増加

保全可能な河畔林イメージ(当初計画)

保全可能な河畔林イメージ(変更計画)

河畔林の保全率が約4割から約6割に増加（本数ベース）

※計画のイメージであり、実際とは異なる可能性があります。

○現地発生材を用いた施設の試験施工

- ①簡易的な施設の試験施工によりその位置や形状等の有効性を確認することを目的。
- ②出水で流されても下流への影響負荷が少なくなるように河川内の転石や土砂を利用。(斜面土留め部は袋詰め玉石工を連結補強、魚道部は可能な限り転石等で凹凸を作り、流れに変化をもたせる。)
- ③左岸側を遡上してきた魚族の遡上進行方向に近い位置に魚道下流端を配置。また、可能な限り現況の深みや洲を保全。
- ④魚道部分勾配1/7程度。魚道幅2m程度。
- ⑤設置後の状況について観察を行い、遡上効果を確認。
- ⑥良好な河川環境の確保に向けて、引き続き、効果的な施設の検討を実施。

配慮事項

- ・斜面部土留め部には袋詰め玉石工で安定を確保
- ・河川内の転石や土砂等で魚道部に凹凸を作り、流れに変化



R7.5.20 仮設魚道設置



R7.5.21 出水による一部流出



R7.5.29 仮設魚道補修

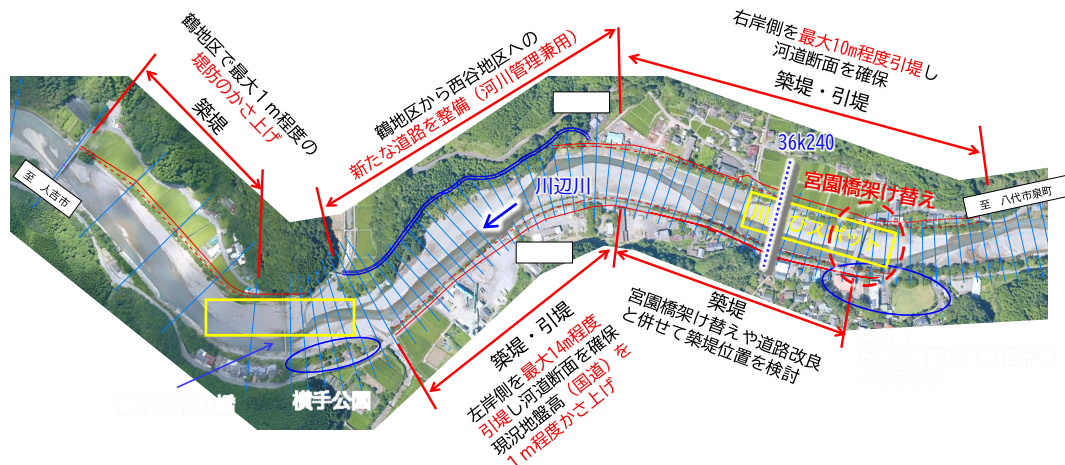


○川辺川の宮園地区では、令和4年に策定した河川整備計画に基づき、気候変動を考慮した戦後最大の洪水を流せる河川改修(築堤・引堤や河道掘削)を実施。河床に土砂が堆積傾向であることを考慮し、堆積時でも整備計画流量が安全に流れる断面を確保。

○梶原川の竹の川地区では、河川整備計画に基づく宅地かさ上げ及び河川改修を実施。

■川辺川(宮園地区)

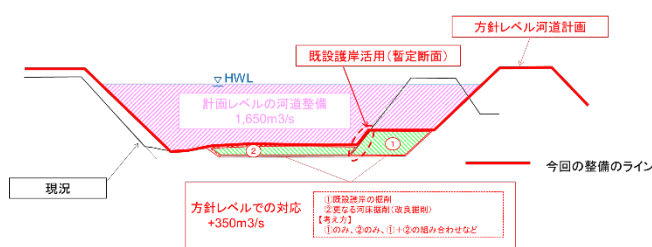
- 令和4年8月に策定した河川整備計画に基づく治水対策(築堤・引堤や河道掘削)に取り組んでおり、令和5年度から概略設計、令和6年度から詳細設計に着手。
- 令和7年度は昨年度から引き続き、詳細設計を進めるとともに、令和8年度の工事着工に向け、用地・補償に着手。



<宮園地区空撮平面図>



<宮園地区状況写真>



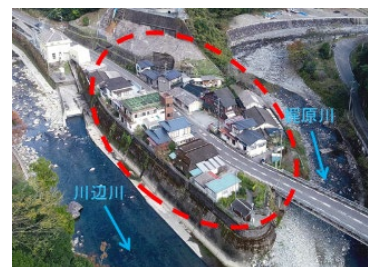
<河川改修のイメージ>

■梶原川(竹の川地区)

- 令和6年度は、宅地かさ上げの詳細設計や建物調査等を実施。またL=530mの区間において、河道の改良掘削工事を実施。
- 令和7年度は、宅地かさ上げの補償交渉を実施。また、L=200m区間のパラペット工事に着手。



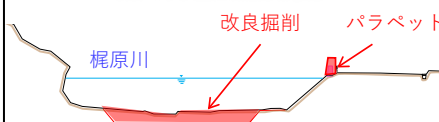
<竹の川地区空撮平面図>



<竹の川地区現況写真>



掘削完了 (R6.6)



<河川改修のイメージ>



<梶原川改良掘削状況>

宮園地区の多自然川づくりについて

- 令和5年度から宮園周辺地域振興協議会等で河川環境に関する地域の意見を聴取し、子供や家族連れが川とふれあえる環境や、魚がすみやすい川の環境を求める意見が多く寄せられた。
- 地域の意見や現在の河川環境等を踏まえ、親水空間の整備や生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に向けた設計・試験施工に取り組む。

地域の意見



第1回宮園周辺地域意見交換会 (R5.8)



第13回宮園周辺地域振興協議会 (R7.2)

- 家族等で川遊びができる場所がほしい
- 魚がすみやすい川にしてほしい 等

現在の河川利用や河川環境



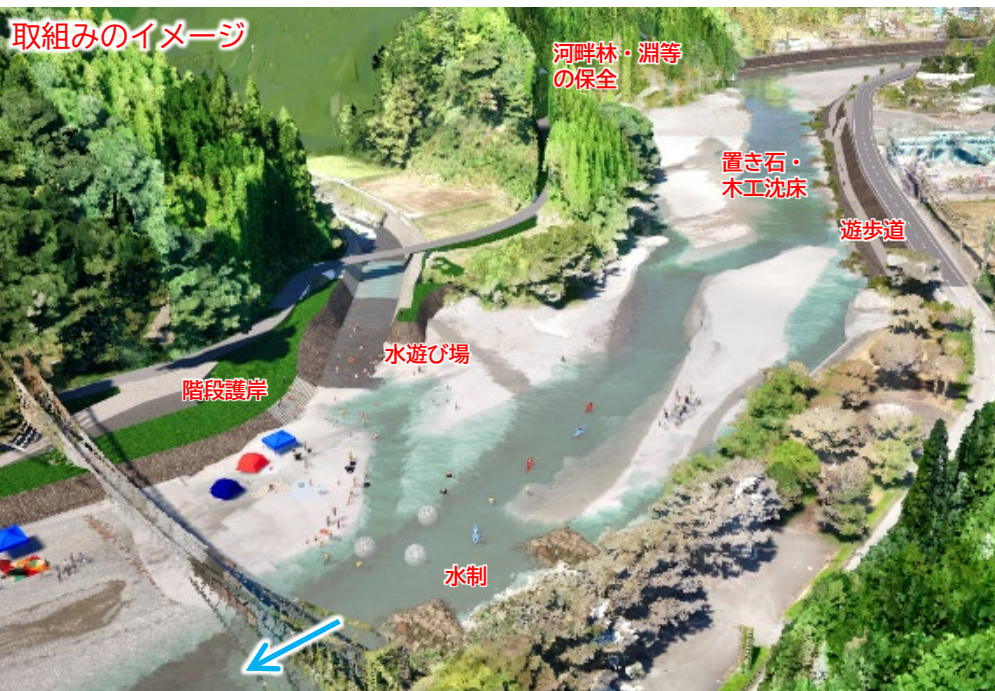
写真①川辺川の林間学校in宮園 (R6.8)



写真②河畔林・淵



写真③現況



取組みのイメージ

河畔林・淵等の保全

置き石・木工洗床

遊歩道

水遊び場

階段護岸

水制